

令和元年度 広島県病害虫発生予察情報

予報第4号（果樹）



令和元年7月19日 発表 広島県西部農業技術指導所
 対象期間 令和元年7月19日～8月上旬
 ※次回の予報は8月13日頃です

もくじ

- 1-1) かんきつ病害虫の現況と予報（概要） . . . P1～2
- 1-2) かんきつ病害虫の現況と予報（詳細） . . . P2～4
- 2 果樹カメムシ類の発生状況 . . . P5
- 3 気象情報 . . . P5
- 4 お知らせ . . . P6

かんきつは南部の以下の地域が対象です。
 ※西部：竹原市以西の沿岸島しょ部
 東部：三原市以东の沿岸島しょ部

1-1)		かんきつ病害虫の現況と予報（概要） 7月11～16日調査	
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項（防除時期）
黒点病	やや少	やや少	◇防除間隔は長くても1ヶ月以内とする。また前回防除してからの降水量が250mmを超えたら追加防除する。 ◇樹上の枯れ枝および園内の剪定枝は伝染源となるため除去し、園外で処分する。
かいよう病	やや多	やや多	◇強風雨により発病が助長されるので、台風襲来前の防除を徹底する。 ◇薬斑発生防止のため、銅水和剤の散布時には、クレフノンを加用する。 ◇ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除する。
ミカンハダニ	少	少	◇8月以降に発生すると、果実の外観品質を損なうので注意する。 ◇薬剤が葉裏にもかかるようにいねいに散布する。 ◇抵抗性個体の出現を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。 ◇多発園は防除の徹底を図る。
ミカンサビダニ	並 ※一部圃場で発生	並	◇被害を確認してからの防除では遅いため、梅雨明け直後の防除を徹底する。 ◇特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意する。
ナシマルカイガラムシ	やや多	やや多	◇孵化幼虫時期に薬剤散布を行うと効果が高い。 ◇発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月上旬までに防除を行う。
ヤノネカイガラムシ	並 ※発生なし	並	◇発生が見られるほ場では、第2世代幼虫期の8月中下旬に防除を行う。
イセリヤカイガラムシ	並 ※発生なし	並	

病害虫名	現況	防除上の注意事項(防除時期)
そうか病	やや少 ※発生なし	◇発病した葉や枝は伝染源となるので除去する。 ◇降雨後等に樹体が濡れた状態が続くと発生しやすいので、通風、採光をよくする。
チャノキイロアザミウマ	—	◇第4世代、第5世代の発生ピークは、気温が平年並みに推移した場合、それぞれ8月1日、8月18日と予測される。 ◇発生ピーク予測日の7日前～発生ピーク当日の防除が、効果が高いとされている。

1-(2) かんきつ病害虫の現況と予報(詳細)

黒点病 	現況(平年比)	予報の根拠	(+) : 多発要因, (±) : 平年並, (-) : 少発要因
	やや少	◆巡回調査では平年に比べやや少ない発生であった。 ◆向こう1か月の降水量は少ない20%, 平年並40%, 多い40%と予想されている(+)	
	予報(平年比)		
	やや少		

防除上の注意事項

◇防除間隔は長くても1ヶ月以内とする。また、前回防除以降、累積降水量が250mmを超えたら追加防除を行う。

巡回調査データ

黒点病発病地点率

調査時期	平年 (%)	前年 (%)	本年 (%)
7/中	45	80	20
8/上	75	80	-
9/中	85	85	-
10/下	95	95	-

黒点病発病果率

調査時期	平年 (%)	前年 (%)	本年 (%)
7/中	5	10	0
8/上	10	10	-
9/中	20	20	-
10/下	40	25	-

(注) 前年の7月中旬は豪雨災害のため欠測

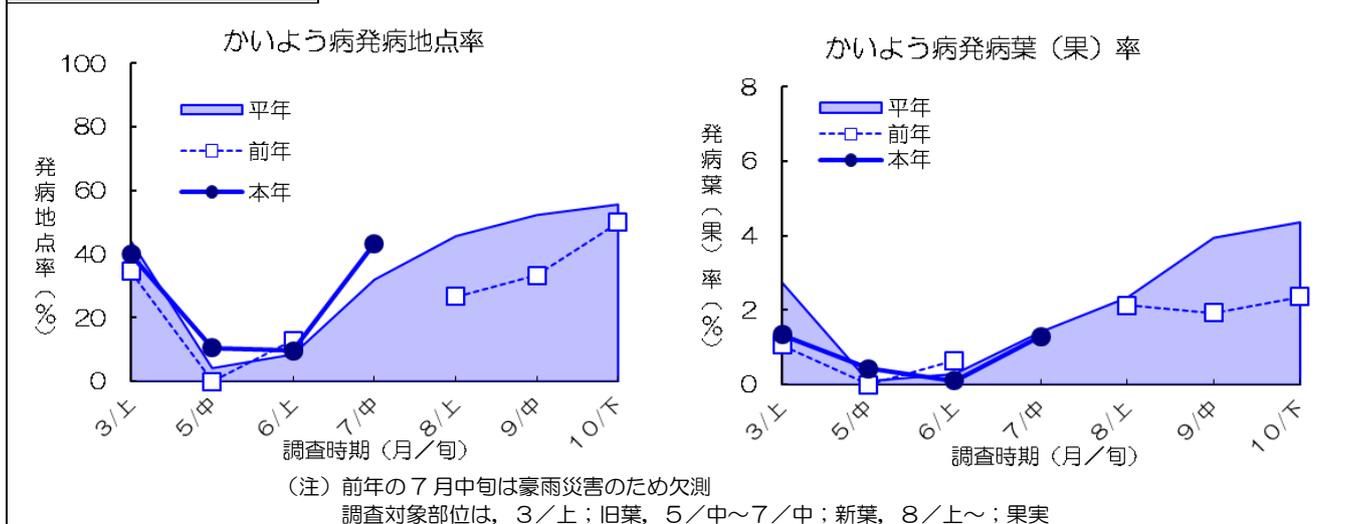
かいよう病 	現況(平年比)	予報の根拠 (+:多発要因, (±):平年並, (-):少発要因 ◆巡回調査では、平年に比べやや多い発生であった。 ◆向こう1か月の降水量は、少ない20%、平年並40%、多い40%と予想されている(+)
	やや多	
	予報(平年比)	
	やや多	

防除上の注意事項

◇ネーブル、レモン、はるみなどの品種は発病しやすいので注意する。
 ◇昨年度罹病した枝葉が伝染源となるので、除去するとともに、基幹防除を徹底する。
 ◇銅剤散布にあたっての注意事項

- ・マンネブ剤、マンゼブ剤とは混用せず散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上あける。
- ・無機銅剤(コサイド剤など)の散布を行う際には、クレフノン(希釈倍数:200倍)を加用する。
- ・高温時に散布を行うと薬害が発生しやすいので注意する。

巡回調査データ



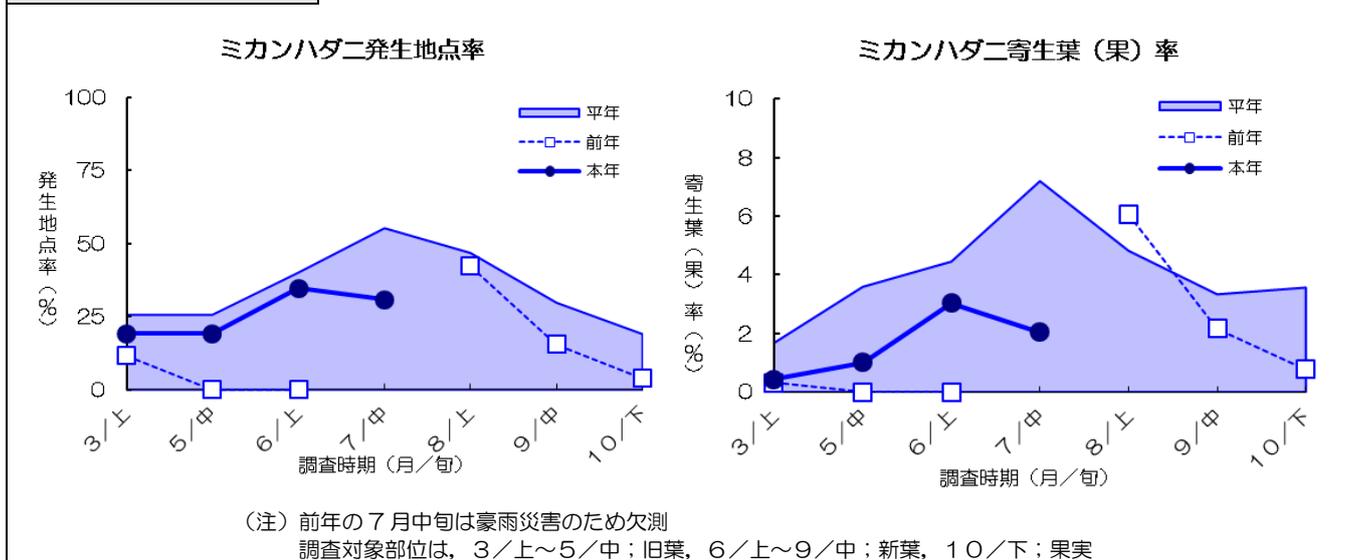
【発生量について】

「予報」「現況」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分の方法は、原則として、過去10年間の同時期の調査結果の数値を、発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

「多」 : 1番目(最多年)と同程度以上
 「やや多」 : 2~3番目と同程度
 「並」 : 4~7番目と同程度
 「やや少」 : 8~9番目と同程度
 「少」 : 10番目(最少年)と同程度以下

ミカンハダニ 	現況(平年比)	予報の根拠 (+: 多発要因, (±): 平年並, (-): 少発要因 ◆巡回調査では、平年に比べ少ない発生であった。 ◆向こう1か月の降水量は少ない20%, 平年並40%, 多い40%と予想されている(-)
	予報(平年比)	

巡回調査データ



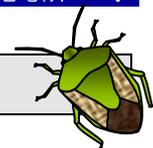
チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマは、防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、かんきつ園に飛来する。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなる。チャノキイロアザミウマは、気温の推移から成虫の発生が多くなる時期(発生ピーク)を予測することが可能である。防除適期は、発生ピークの7日前~ピーク当日が効果的であることが分かっている。

例年被害がみられるほ場では表1を参考に、この時期に合わせた防除を行う。

表1. チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日(生口島アメダスデータに基づく)

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第4世代	第5世代
平年より高い(+1℃)	7月31日	8月16日
平年並	8月1日	8月18日
平年より低い(-1℃)	8月2日	8月20日



2 果樹全般 —カメムシの発生に注意しましょう—

県内5地点の集合フェロモントラップへの誘殺状況は、7月第3半旬まで平年並〜やや多で推移している。

表2. 県内各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数(～7月第3半旬) 単位:頭

設置地点	本年	平年 ※1	注意報発表年 平均 ※2	注意報未発表年 平均 ※3
東広島市安芸津町	252.1	498.6	1048.2	263.1
福山市神辺町	172.7	76.2	109.3	59.6
世羅町	334.8	313.0	1007.6	114.6
庄原市東城町	46.0	63.7	138.0	31.8
庄原市高野町	50.0	104.4	301.3	20.0

- ※1 各調査地点の平年とは、以下のとおり
東広島市安芸津町、世羅町本郷、庄原市高野町および庄原市東城町については過去10年(平成21年～)、福山市神辺町は過去9年(平成22年～)の平均値
- ※2 注意報発表年は、注意報を発表した年(平成22, 24, 26年)
- ※3 注意報未発表年は、平成21年以降で、平成22, 24, 26年を除いた年

ほ場内をよく見回り、発生が認められた場合は速やかに防除を実施する。
また、集合フェロモントラップへの誘殺状況等、今後発信する情報に注意する。
7月11日付で果樹カメムシに関する技術情報第2号を発表しているの、そちらも参考に
にする。
※調査データは、広島県のホームページをご覧ください。

3 気象情報

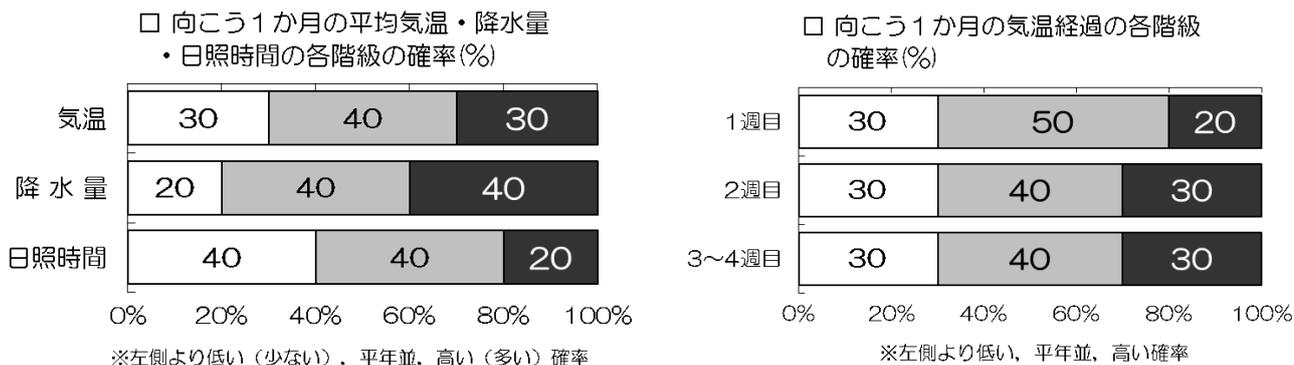
中国地方1か月予報

(広島地方気象台7月18日発表、7月20日から8月19日までの天候見通し)

期間の前半は平年と比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに30%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。2週目以降は平年並みの確率40%です。



4

お知らせ

◇病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは、広島県ホームページで閲覧できます。



アクセスはこちらから！



<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>

農薬危害防止運動を実施中（6月1日～8月31日）

農薬を使用する際は、ラベル表示を十分に確認して、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。

今回の病害虫発生予察情報に関するお問合せ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）

広島県 植物防疫

検索